

Shimotsuke English Journal (SEJ)

Vol. 22



H29.9.22

今月のキーワード

とちぎっ子学習状況調査

日本の文化を伝える

今年度実施されたとちぎっ子学習状況調査（中学校2年生）について、今後2回にわたり分析・考察をお伝えします。小中で一貫した学びを進めていくためにも、小・中学校における学習内容のつながりや、中学校で更に充実させるべき指導について、再確認していただきたいと思います。

とちぎっ子学習状況調査より①

下野市全体としては、領域別（聞くこと/読むこと/書くこと）・観点別（外国語理解の能力/外国語表現の能力/言語や文化の知識・理解）の正答率が全て県平均を5ポイント以上上回っていました。

一方、昨年度に引き続き、上位層と下位層の差が大きく開いているとともに、「場面や条件に応じた英作文（対話文に当てはまる疑問文を書く）」設問では無回答率が最も高く、市全体で29.5%に上りました。良い点は伸ばし、改善点は校内で共通理解を図りながら、生徒の学習意欲、英語力ともに高めていってほしいと思います。

▽市平均正答率が低かった設問（①語順の理解・②長文の読み取り）について

① 語順の理解

・対話が成り立つように（ ）内の語句を並べかえて書きなさい。

A : Which (you / bike / like / do), Ted?

B : I like blue one.

<市正答率 35.8%>

<分析・考察>

- ・Which の後に名詞 bike を置かない（※Which do you like bike?と解答）生徒が53.7%。
昨年度も同様な設問で※How many do you have bags?と誤答を選択した割合は市全体の3割程度を占めた。実際のコミュニケーション場面を設定し、英語を使わせながら定着させることができるよう、今後も継続した指導が必要である。
- ・疑問詞で始まる文は、小学校で音声としては何回も聞いている。小学校で学習したことをもとに、中学校では更に会話を発展させるなど、小中のつながりを十分に配慮した指導を心掛けたい。
- ・聞いたり話したりしたことについて、書いて確かめさせる、など複数の技能を関連させた言語活動を引き続き充実させていく必要がある。
- ・三人称単数現在のSなど、他にも定着に時間を要する文法事項がある。授業の中で意図的に教師が使い、インプットを心掛けるとともに、定着を確認する機会を定期的に設ける必要がある。

クラスルームイングリッシュは、子どもたちにとって効果的なインプットです。既習の言語材料を用いながら、子どもたちと英語でやりとりをする時間を十分に確保してください。





ALT と日本の文化を体験

9月13日(水)に細谷小学校において「Special English Day」(市内ALT・JTEとの異文化体験授業)を行いました。ALTの出身国の遊びや日本の昔遊びを楽しんだ後に、児童がALTに「早っ子音頭(はやっこおんど)」の踊り方を英語で教え、全員で踊りました。



日本文化コーナーでは羽子板を使って羽根突きを体験しました。日本の文化を見直す機会にもなりました。



6年生がリーダーとなり、縦割り班ごとに5つのブースをローテーションしながら活動を楽しみました。



Raise your right hand.



Clap your hands.



毎年運動会で踊っている「早っ子音頭」は、子どもたちにとって馴染みのある踊りでした。

ALTに「早っ子音頭」を英語で説明しています。いくつかの単語を組み合わせ、動作をしながら説明することで上手く伝えることができました。

<児童の振り返り用紙より一部抜粋>

- 英語で何を話しているかを考えて、がんばって日本の文化との違いも考えました。(4年生)
- 外国の文化と日本の文化は、似ているところもちがうところもあって良いなあと思いました。(5年生)
- 英語のじゅうようせいにきついた。たくさん勉強して、外国の人に案内したい。(6年生)
- 早っ子音頭を教えるときに、習っていた単語を使うことができるとてもうれしかった。(6年生)

10月7日(土)、市役所で英語検定試験を実施します。市内中学校から合計52名の生徒が準2級、3級を受験します。中学校の先生方には、申請書の提出等ありがとうございました。引き続き、助成金に関する手続き等でお世話になりますが、よろしくお願いいたします。